

『おしゃべり森のものがたり』

小手鞠い作 長田恵子/絵 フレーベル館

アメリカに住む親戚に会いに行くことは、舞の家族の一大イベント。けれど、お母さんは来ませんでした。お母さんは秋から仕事で海外に行くことが決まり、その準備をするために日本に残ったからです。舞は、お母さんと離れて暮らすことが気になり、旅行を心から楽しむことができます。けれども、自然や動物、たくさんのお会いが、凍えそうな舞の心を少しずつあたためていきました。



『捨てないパン屋の挑戦 しあわせのレシピ』

井出留美/著 あかね書房

田村さんは、おじいさんの代から続くパン屋さんの長男です。町に一軒しかないパン屋さんなので、周りの人たちにお店を継ぐと思われていました。田村さんはそれがイヤでした。なのになぜパン屋さんになったのでしょうか。田村さんのパンは、まきを燃やさないで作れません。大学時代に環境問題に興味を持ち、自然への愛情と食品ロスのない世界を願う一人の男性の実話です。

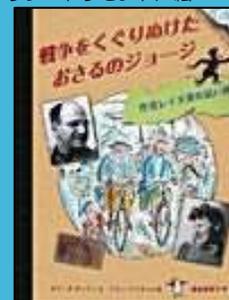


『戦争をくぐりぬけたおさるのジョージ 作者レイ夫妻の長い旅』

福本友美子/訳 岩波書店

「おさるのジョージ」の作者であるレイ夫妻の生涯について書かれています。彼らが、絵本を書いている時代は戦争がありました。

住んでいたパリを脱出するために生活用品よりも大切な作品を持って、何日間も自転車をこぎました。「おさるのジョージ」が、どのように誕生したかについても紹介されています。



『うそ』 谷川俊太郎/詩 中山真一/絵 主婦の友社

うそはよくない。だからうそをついてはいけない。うそをつくと相手を傷つけるし、自分もついたうそでつらくなる。でもね、相手を傷つけないようにするうそもあるのです。本当のことを、はっきり言ってしまうと傷ついたり落ちこんだりしてしまうこともある。そこはむずかしい。この本の作者の思いが、最後のページに書かれています。



下京
図書館だより
2021冬

5年生
6年生

『チョコレートのおみやげ』

岡田淳/文 植田真/絵 BL出版

みこおばさんと私は、港の公園のベンチでチョコレートの箱をひとつとりだした。おばさんはチョコレートを口に入れると、「時間がとけていくみたいや」と言っていて、急にお話をしはじめた。それは、ひとりの男と二ワトリのお話。あまいチョコレートを食べながら語る物語とは…。



『クリスマス・ピッグ』

J.K ローリング/著 ジム・フィールド/絵 松岡佑子/訳 静山社

ジャックはブタのぬいぐるみのDPと大のなかよしです。小さい頃からふたりはずっといっしょでした。ジャックが辛いときも楽しいときも、いつもそばにいてくれました。転校したときも、心細い気持ちをDPが癒してくれました。ところがある年のクリスマスに大変なことが起こりました。DPがいなくなったのです。



『クマが出た！ 助けてベアドッグ クマ対 策犬のすごい能力』

太田京子/著 岩崎書店

職業犬ベアドッグは、町に現れるクマを探しだし、森へ追い返す役目をしています。ナヌックとタマはアメリカからベアドッグとして日本にやって来ました。家の中でクマの毛を入れたネットを探したり、森の中でクマが歩いたルートを見つけるなどの訓練を重ねていきます。近ごろ、日本でも町にクマが多く現れるようになりました。その理由についても書かれています。



『世界のふしぎ断面図鑑』

スティーブン・ピースティー/画 リチャード・プラット/文 宮坂宏美/訳 あすなろ書房

宇宙ステーション、空港、風車、そして“物”だけでなく自然や災害など、外側から見えない内側の不思議を解説しています。紹介されているすべての絵を輪切りにし、細かく描かれています。輪切りにしたそれぞれの部分の役割についても詳しく説明しています。たくさん内側の不思議を知ることができますので、ぜひ読んでください。



『青空晴之助 その1 鼻大蛇の巻』

杉山亮／作 川端誠／絵 仮説社
讃岐の国の少年、青空晴之助は、誰よりも強い武士になりたいと願っていたところ、飯野煙人と出会いました。煙人のもと修行を重ねて1年が経った頃、大川森に大蛇が出る話を聞いて退治しに行くことに…。花は紅。柳は緑。気分は青空晴之助！さあさあ、戦いはどうなるのでしょうか。



『シロクマが嵐をこえてきた！』

マリア・ファラー／作 ダニエル・リエリー／絵 杉本詠美／訳 あかね書房
大好きなおばあちゃんの物わずれがひどくなり、マヤはとても心配。そんなある嵐の翌朝、海岸で見つけたのはシロクマだった！皆に内緒でおばあちゃんはシロクマと暮らし始めました。楽しい冒険とは裏腹に、おばあちゃんのうっかりは増える一方。このままだと施設に引っ越すことになりそう。シロクマはどうなっちゃうの？！



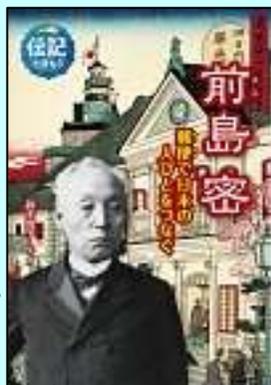
『クモのアナンシ ジャマイカのむかしばなし』

フィリップ・M.シャーロック／再話 マーシャ・ブラウン／絵
小宮由／訳 岩波書店
この本はジャマイカのむかしばなしです。クモのアナンシはトラと出会った時、ひとつお願いをしました。昔話の中に登場するトラの名前を、僕の名前に変えて欲しいと。するとトラは、ハビを生けどりにできたら叶えてくれると約束してくれました。森で一番弱いアナンシが、知恵を絞って生けどりに成功しました。それはどんな方法でしょう。



『前島密 郵便で日本の人びとをつなぐ』

鈴木悦子／作 石井勉／画 あかね書房
手紙を出すときに切手を貼ります。切手はいろいろな値段や絵、柄がありますが、一円切手に載っている人が前島密です。切手を貼って手紙をだしたり、荷物をたのめば届けてくれたり、今ではあたりまえの仕組みを築いたのがこの人物です。郵便、運送だけでなく、新聞、電話、鉄道、教育などの発展にも大きな功績を残し、世の中の人びとに尽くしました。大きな「志」を持ち、たくさんの分野で日本の近代化に力を尽くした前島密の人生と、生きた時代をぜひ読んでください。



『「走る図書館」が生まれた日 ミス・ティットコムとアメリカで最初の移動図書館車』

シャーリー・グレン／作 渋谷弘子／訳 評論社
1901年。図書館がお金持ちの人しか利用することができない時代に、本の貸し出しをする案をだし、分館を作り、そして移動図書館を誕生させた一人の女性司書がいました。すべての人に本を届けたいという想いのもと、図書館を発展させ、その結果多くの市民に読書の喜びを届けました。この本は、ミスティットコムが図書館とともに歩んだ生涯が描かれています。



『博物館のバックヤードを探検しよう！ 博物館のすごい裏側大図鑑』

DK社／編 小林玲子／訳 河出書房新社
博物館に行くと、たくさんのものが展示されています。でも、外に出ているのはほんの少し。バックヤードにはたくさんの資料が保管されています。博物館の資料は気をつけて保管しないと、もとにもどせないくらい傷んでしまいます。そこで、訓練をつんだ学芸員が保存・保管をしています。そのほかにも、教育普及活動、広報、運営、撮影などたくさんの仕事があります。博物館の裏をカラー写真でくわしく紹介しています。



下京図書館

〈場所〉

下京区新町通松原下る富永町 110-1

下京修徳ふれあい福祉会館 4階

〈開館時間〉

月・水～金曜日

午前9時半～午後7時（しばらくの間）

土・日曜日・祝日

午前9時半～午後5時

（火曜日はおやすみ！）

おかげさまで！
しもぎょうとしょうかん
下京図書館は
いてん 20 周年をむかえました。
2021.7

下京図書館だより 2021年 冬 5年生6年生